

吉井川決壊！ 明治時代の水害と河川改修

洪水といえば、近年では1990（平成2）年の水害が記憶に新しいところですが、こうした洪水の被害は、この地域で歴史上たびたび繰り返されてきました。ここでは邑久町史の史料調査の中で新たに発見された記録から、明治時代における洪水の模様と、それへの対策についてみてみることにします。



邑久町千町平野の洪水状況（平成2年9月）

明治4年の洪水で死者6人
まず1871（明治4）年、梅雨の大雨によって増水した吉井川は、ついに5月18日未明、福岡村の堤防を破り、またたく間に北は長船から南は門前までの村々に氾濫しました。この洪水後に作成された向山村の被害調査を見ると、27軒が災にあって、例えば岡崎富吉の家では床上2尺（60cm）まで浸水し、雪隠（トイレ）は流失。米麦8俵が濡れて芽をふき、漬物はすべて流れてしまうなどの損害を出しています。また邑久郡全体では、死者6人、全半壊した建物は1、100棟余、被害田畑は約1、700町歩に及びました。

この大洪水からの復旧が大変な事業であったことは言うまでもありませんが、当時としてとりわけ頭の痛い問題が租税の支払いでした。その年の暮れ、向山村の村役人は、できたばかりの岡山県（廃藩置県はこの年の7月）に対して租税減免の嘆願書を提出しました。それによると、近ごろでは県内各地で「不平」が高まり「沸騰強訴」の動きが見られる。邑久郡でも「動揺」が広がりがつつあり、このままだと大きな騒動も起りかねないと、半ばどう喝に近い言葉をもち「格別の御救」を要求しています。

明治25・26年にも洪水発生
次に、それから20年後の1892（明治25）年7月23日深夜、今城村福山で再び吉井川が決壊。今城村以南の村々は数日間にわたって浸水しました。しかも翌1893（明治26）年10月14日にも同様な洪水が発生。しかし今回は、豊原北島神社の神職・業合年緒が「大川が洪水で、夜中村々の者は堤番に行つて徹夜するぞうだ」と日記に書いていたように、人々の尽力によって、幸いにも吉井川の決壊は食い止められました。

吉井川の堤防修築本格的に
そして、この2年続きの洪水を受けて吉井川の堤防修築も本格的に行われ、その設計書によれば、約750間（1、300m）の改修に1万8、000余円（現在の金額にして約2億円）の工費が見積られています。さて、こうした吉井川の決壊とともに、この地域の洪水の大きな原因となってきたのが、千町川の排水の悪さです。そこでその根本的な解決を図ろうと、1887（明治20）年、千町川を尻海まで延長し錦海湾へ

も排水するという計画が持ち上がりました。これが実現すれば、単に水害防止にとどまらず、物資の運搬にも大いに役立つと考えられたのでした。しかし、これは「未曾有の工事」であり、見積書によれば、総工費3万7、800余円（現在の約4億円）、延べ人夫31万2、000余人、しかもそれをすべて邑久郡内で調達しようというものでした。という訳で、こうした予算面の問題、またおそらくは地形的条件の困難さもある、この計画は実行されるには至りませんでした。しかし、この千町川を錦海湾に貫通させるという構想は、その後も戦後に至るまで何度もち上がっていて、人々がこの計画にかけた期待のほどが伺われます。

本稿の作成には、永山家文書・渡辺家文書・稲葉家文書・業合文庫を利用しました。

ジャンプ ステップ ホップ

このコーナーは、生涯学習や生涯スポーツに生き生きと取り組む皆さんを紹介し、皆さんも仲間入りしませんか。

一編み一編み丁寧に 竹工芸クラブ

竹工芸クラブの活動日。邑久町公民館の一室でクラブ員の皆さんが、指導者の出射正昭さんが作った材料表に従い黙々と竹を削り、器用な手つきでかごなどを編んでいます。

一編み一編み丁寧に編み上げ、形になると染料に浸し、布でふき取り色を調整し、ニスを塗って仕上げ。人によって誤差はありますが、1カ月に1作品を完成させます。

「竹細工は、時間を忘れて没頭できるのが魅力」と代表の入江安正さん（81歳・邑久町下笠加）。「花かごが出来上がった時は、早く



丁寧に竹を編む皆さん

家に帰って花を入れようと思う」「出来上がったかごに花を入れた時は満足感でいっぱい」と皆さん。

同クラブでは、材料入手も自分で行います（始めたばかりの人の材料は先生が準備）。9～11月ごろ、1年分の材料の竹を切り、その竹を火であぶり出してきた油をふき取って、1カ月～1カ月半風雨にさらして用います。

真つすぎな竹が、皆さんの手で、しなやかな作品に生まれ変わります。

同クラブでは仲間を募集中。気軽に見学にお越しください。

- ★活動日時 第1・3金曜日 午後1～5時
- ★活動場所 邑久町公民館
- ★会費 月2、000円
- ★代表 入江安正さん
- ☎086912210076

スポーツを通し人間形成 瀬戸内卓球少年団

牛窓西小学校の体育館から子どもたちの掛け声が聞こえてきます。4歳から中学校3年生まで幅広い年齢層の団員25人が汗を流しながら練習に励みます。

16年前に牛窓卓球少年団が発足。今年4月から名称を「瀬戸内卓球少年団」に変更し、卓球好きな少年少女が市内から集まりました。足を使って動く多球練習や基本練習、技術不足を補う応用練習、試合練習などA、B、Cのクラスに分かれ練習。一流になりたい人にはなれる環境を、卓球を楽しむ人は楽しめるようにと、団員たちのニーズに合った練習をします。



幅広い年齢層の瀬戸内卓球少年団の皆さん

山口、長野、徳島など全国各地で開催される大会に参加。今年も団員6人が全国大会に出場しました。

「子どもたちの心身の健全な育成、スポーツを通しての人間形成を目的としています。和も大切に。また、試合で好成績を残すことも大きな目標のひとつです」と指導者の郡山一幸さんは、熱く話してくれました。

★練習日時 ▽土曜日・午後1時30分～4時30分
▽日曜日・午後7時～8時30分 ▽火曜日・午後7時～8時30分

★練習場所 牛窓西小学校 体育館、長船スポーツ公園 体育館、邑久中学校体育館

★会費 月500円

★代表 郡山一幸さん

☎086127615160



和やかな雰囲気が魅力の竹工芸クラブの皆さん



汗を流す練習に励みます